

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月12日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2011

課題番号：21320126

研究課題名（和文） 西南戦争に関する記録の実態調査とその分析・活用についての研究

研究課題名（英文） A Research on the Historical Documents concerning on the Seinan War of 1877.

研究代表者

大谷 正 (OTANI TADASHI)

専修大学・文学部・教授

研究者番号：50127198

研究成果の概要（和文）：最後の士族反乱であるとともに最後の内戦である西南戦争は1877年に発生した。西南戦争研究を一層発展させるために、われわれはいままで西南戦争の研究で使用されなかった新資料を発見するために、3年間の調査を実施した。その結果、各地域の文書館や図書館において、多くの今まで知られていない西南戦争に関連する行政文書、私文書あるいは新聞記事を発見した。これらの資料の分析によって、西南戦争研究が進展することが期待される。

研究成果の概要（英文）：The Seinan War that was the last samurai revolt, and was the last civil war in Japan, occurred in 1877. To develop the Seinan War studies, we carried out a 3-year investigation to discover the new documents which were not used in the studies. As a result, in many prefectural archives and libraries, we discovered a lot of local administrative documents, private documents or newspaper articles in conjunction with the Seinan War that were not known before. It is hoped that the Seinan War study progresses by the analysis of these new documents.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	2,300,000	690,000	2,990,000
2011年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
年度			
総計	8,300,000	2,490,000	10,790,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近現代史

1. 研究開始当初の背景

(1) 西南戦争研究は明治時代に始まり、陸軍と海軍の戦史ならびに、薩軍と党薩隊を顕彰する目的の黒龍会編『西南記伝』が刊行された。第2次世界大戦後は、自由民権運動研究と関連しながら井上清や圭室諦城によって研究が進展し、ついで戦場となった九州地域の研究者により戦争と民衆の関係が検討さ

れた。その後、長く研究が停滞していたが、最近、小川原正道『西南戦争』（中公新書、2007年）と猪飼隆明『西南戦争—戦争の大義と動員される民衆』（吉川弘文館、2008年）が発表され、研究は新たな段階に入りつつある。

(2) 研究代表者の大谷は日清戦争研究を研究

テーマの一つとし、日清戦争期の民衆の戦争体験、メディアによる戦争情報伝達、戦争の記憶形成に影響する戦史叙述等について研究を進めるなかで、初めての近代的対外戦争である日清戦争と、その直前の過渡期の戦争である西南戦争の比較研究の必要性を感じた。これは、近年の軍隊・戦争研究の新たな展開に強い影響を受けた結果である。

(3)しかし研究に着手してみると、小川原・猪飼の近著が刊行されたにもかかわらず、この10数年間に大きな前進を見せた日清戦争研究に比べると、西南戦争研究には研究を進めなければならない分野があまりにも多く残されていること気がつき、科学研究費補助金を申請する前年度から、今回の科学研究費補助金基盤研究(B)の研究分担者のメンバーに呼びかけ研究懇談会を立ち上げ討論した結果、西南戦争研究の前提として、西南戦争に関係する記録の存在実態を調査し、記録の分析・活用の方向性を検討し、近代史研究者の共有財産とすることが先決であるという認識に達した。

2. 研究の目的

(1)「西南戦争に関する記録の実態調査とその分析・活用についての研究」を申請するにあたって、研究目的を次のように設定した。

「西南戦争に関する諸史料が、どこにどのような形で保存されているかについて、その全容を明らかにするとともに、このプロジェクトで蒐集された諸史料が、これまでの西南戦争研究に如何なる新見地を提供できるのか検討し、そのなかから重要かつ緊要な史料を選び出して、翻刻・出版できる条件を検討する」ことにある、と目標を設定した。

具体的には、先ず第1に、西南戦争関係資料として以下の様な資料の所在と実態の調査を行うことを計画した。

①鹿兒島の私学校軍および党薩諸隊、さらに九州以外の各地の西郷方に組みせんとした士族の動向に関する資料の調査。

②政府軍関係史料の調査。

③官薩を問わず従軍した兵士の日誌・書簡の調査。

④指揮官クラスの個人資料の調査。

⑤主要な戦場となって多くの被害を出した熊本県と宮崎県の民衆動向に関する資料。

⑥新聞雑誌の戦争報道に関する調査。

(2)さらに以上の様な膨大な記録を調査・収集した上で、それをどの様に分析し、世に出すかの検討を行おうとした。われわれの調査によって収集された諸記録が、西南戦争研究に如何なる新知見を提供できるか検討し、可能であれば必要な記録を翻刻・出版する条件を探ることが、第2の課題であると考えた。

上記のような西南戦争関係の記録の実態調査と記録の分析・活用の方向性を検討することで、調査をおこなった史料群を近代史研究者の共有財産とし、西南戦争研究を新たな視角から始めるための基礎条件の形勢を確立することができるし、それが必要であると考えた。

3. 研究の方法

(1)3年間の研究期間において、年度ごとに各3回の研究会議を開催し(3カ年で合計9回実施)、調査計画の策定と調査成果の確認をおこなうと共に、各研究分担者・研究協力者の調査の進捗状況を報告し、調査結果の共有を図った。また、各研究分担者・研究協力者あるいはゲスト研究者の研究報告と討論を行った。原則として研究会は公開し、メンバー以外の研究者の参加を求めて議論の深化を図った。

なお研究協力者として、西南戦争研究の第一人者である猪飼隆明の全面的協力を求め、研究会議と協同資料調査に参加を依頼した。またこの他に、岩壁義光(東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所研究員)、友田昌宏(中央大学文学部兼任講師)、長野浩典(大分県東明高校教員)の諸氏にも協力を依頼して、それぞれの得意分野において協力を得た。

各研究分担者が担当し、あるいはゲスト研究者を招いて実施した研究報告は以下の通りである。

新井勝紘(専修大学文学部教授)「西南戦争と竹橋事件—兵士の従軍日記を中心に」

落合弘樹(明治大学文学部教授)「西南戦争と延岡」

大谷 正(専修大学文学部教授)「2009年度・2010年度資料調査の実績について」

友田昌宏(中央大学文学部兼任講師)「岩倉具視と西南戦争」

松澤裕作(専修大学経済学部准教授)「明治太政官における歴史記述の模索—修史館編「征西始末」をめぐって」

小川原正道(慶應大学法学部准教授)「西南戦争における久留米支庁の役割について—福岡県立図書館所蔵電報から」

大谷 正(専修大学文学部教授)「仙台地域の西南戦争資料—公文書・新聞・その他」

佐々博雄(国士舘大学文学部教授)「熊本丁丑会と関係資料について」

(2)各年度において複数回の共同調査を行い、各所の都道府県立の文書館、図書館等に所蔵されている公文書を中心に調査を行い、あわせて私文書の調査にも着手した。

今回の調査では、従来本格的な調査がされていなかった文書館・図書館をピックアップして共同調査を実施したが、想定した以上の

膨大な資料が存在することが明らかになった。網羅的なリストは印刷刊行した報告書に譲るが、下記の施設には特に多くの興味深い資料が存在することが分かった。

【北海道】

北海道立図書館北方資料室：『西南公文録』・『黎明館（北海道）文献』

北海道立文書館：旧開拓使関係文書

北海道大学附属図書館北方資料室：白石家文書等

【山形県】

鶴岡市立図書館郷土資料室：旧鶴岡藩士族の動向を示す資料

【宮城県】

宮城県立公文書館：宮城県庁文書中の西南戦争関係資料

【東京都】

明治大学博物館：内藤家文書

宮内庁書陵部：西南戦争関係資料小展示会

国文学研究資料館：愛知県庁文書・群馬県庁文書・岡谷繁実文書

東京都公文書館：東京府公文書中の西南戦争関係文書

【京都府】

京都府立総合資料館：本多辰次郎（宮内省臨時帝室編集局御用掛として明治天皇紀編纂に従事）文書および京都府行政文書中の西南戦争関係資料

【福岡県】

福岡県立図書館：郷土資料室所蔵「旧福岡県史編纂資料」中の西南戦争関係資料

【長崎県】

長崎県立歴史文化博物館：旧長崎県立図書館郷土資料中の西南戦争関係資料

【宮崎県】

宮崎県文書センター：宮崎県庁古公文書中の西南戦争関係資料

各施設では資料リスト作成と重要資料の撮影を試みたが、資料が膨大であったために、資料の所在確認にとどまった施設も少なくない。

(3)また、インターネットでアクセスできる、国立公文書館、防衛省防衛研究所図書館、東京大学史料編纂所に所蔵される西南戦争関係資料を検索し、必要なものを記録した。さらに古書店等から若干の関係資料を購入した。これらは、必要に応じて目録を作成し、データをポータブルHDDに記録し、各研究分担者・研究協力者の間で記録の共有を図り、また外部からの求めがあれば資料を提供することとした。

4. 研究成果

(1)従来の西南戦争研究において使用されて

きた主要な資料は、陸軍と海軍の戦史・『西南記伝』と大久保・木戸等の政府要人の私文書が中心で、公文書については国立公文書館と防衛省防衛研究書図書館所蔵の政府と陸軍・海軍関係資料および熊本・長崎両県の県庁文書が一部利用されているのみであった。今回の調査で各地の文書館・図書館に膨大な西南戦争関係の行政資料が所蔵されていることが確認された。とりわけ、北海道の開拓使関係資料と宮崎県文書センター所蔵県庁文書、また宮内庁書陵部の資料は、質量共に充実したもので、今後の研究において使用されることが大いに期待されるものであった。

(2)私文書についても、政府要人の文書としては岩倉具視関係文書に膨大な関係記録が含まれていることが明らかになった。また、従軍した兵士の日記・書簡も各所で発見され、戦闘の具体的な様相と兵士の戦闘体験を明らかにする資料として活用が期待される。

(3)中央の新聞・雑誌に多くの西南戦争関係記事が掲載されていることは知られていたが、発生したばかりの地域の新聞にも数多くの資料が発見された。地域の動向を示す具体的記事のみならず、従軍した兵士から寄せられた多数の書簡が発見され、前項の日記と共に兵士の戦場体験を明らかにする格好の資料であることが分かった。

(4)最終年度の2011年末を期して、各研究分担者・研究協力者が調査を担当した記録群について、資料ガイドと研究方向を示す論文を掲載した研究報告書(80頁)を刊行した。その目次は下記の通りである。

I. 研究概要

研究組織・研究目的と成果・年度別研究概要

II. 本文編

猪飼隆明「長崎県立歴史文化博物館所蔵の西南戦争関係資料」

小川原正道「西南戦争における久留米支庁の役割について」

落合弘樹「西南戦争と延岡」

佐々博雄「熊本丁丑会の変遷と史料紹介」

堀内暢行「宮崎県文書センター所蔵の西南戦争関係資料」

大谷正「仙台地域の西南戦争関係資料と『仙台新聞』西南戦争関係記事」

友田昌宏「岩倉文書からみた西南戦争」

大谷正「北海道開拓使と西南戦争関係資料」

この研究報告書は今後西南戦争関係資料を調査する際のガイドとなるものである。研究報告書は大学図書館等の施設に配布する予定である。なお、近くHPを開設して、そこ

に報告書等のデータ掲載する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ①勝田政治「征韓論政変と大久保政権」(明治維新史学会編『講座明治維新』第4巻、有志舎、2012所収)、56-90頁、査読有
- ②猪飼隆明「近代化と士族—士族反乱の歴史的位置—」(明治維新史学会編『講座明治維新』第4巻、有志舎、2012所収)、91-122頁、査読有
- ③大谷正「資料紹介：碓井福太郎『鹿児島征討日記—西南戦争に従軍した政府軍兵士の日記(続)』、『専修人文論集』第89号、2011、1-28頁、査読有
- ④大谷正「資料紹介：碓井福太郎『鹿児島征討日記—西南戦争に従軍した政府軍兵士の日記』、『専修人文論集』第88号、2011、23-54頁、査読有
- ⑤勝田政治「征韓論政変と大久保利通」、『国士館史学』第15号、2011年、1-31頁、査読有

[学会発表] (計5件)

- ①小川原正道「福沢諭吉の指導者像—『丁丑公論』と西郷隆盛」、2011年10月15日、福沢諭吉記念文明塾
- ②小川原正道「近代日本における戦争と宗教」、2010年9月6日、日本思想史研究会、於立命館大学
- ③三澤純「維新変革期における民政と民衆」、2010年6月13日、明治維新史学会、於駒澤大学
- ④小川原正道「明治期における「西郷隆盛」像の形成過程」、2010年4月18日、国際日本文化研究センター

[図書] (計5件)

- ①三澤純他『荒尾市史』通史編、共著、2012年3月、荒尾市、総頁数1598頁(「第4編第2章第2節・自由民権派の勃興から西南戦争へ」869-921等を担当)
- ②明治維新史学会編『明治維新史の今を問う』、共著、2011年7月刊、有志舎、295頁、(三澤純「維新変革期における民政と民衆」73-99頁を担当)
- ③西原村誌編纂委員会編『西原村誌』、共著、2010年10月、熊本県阿蘇郡西原村、423頁、(三澤純・長谷川栄子「近現代」、233-293頁を担当)
- ④小川原正道『近代日本の戦争と宗教』(講談社選書メチエ、2010年)、222頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大谷 正 (OTANI TADASHI)
専修大学・文学部・教授
研究者番号：50127198

(2) 研究分担者

新井勝紘 (ARAI KATSUHIRO)
専修大学・文学部・教授
研究者番号：40222707
佐々博雄 (SASA HIROO)
国士館大学・文学部・教授
研究者番号：40170716
勝田政治 (KATSUTA MASAHARU)
国士館大学・文学部・教授
研究者番号：10276446
落合弘樹 (OCHIAI HIROKI)
明治大学・文学部・教授
研究者番号：50233565
小川原正道 (OGAWARA MASAMICHI)
慶應義塾大学・法学部・准教授
研究者番号：40352637
三澤 純 (MISAWA JUN)
熊本大学・文学部・准教授
研究者番号：80304385

(3) 連携研究者

()

研究者番号：